

高志

長岡高専同窓会報 第18号

発行日 平成27年3月

主な内容

会長あいさつ	1
名誉会長・副会長あいさつ	2
50周年記念事業	3
長岡高専サイエンスフェスタin新潟	4
ロボコン	5
TOPICS	6
還暦OB通信	7
部活動紹介	8,9
体育大会入賞者	9
研究室紹介	10
OB通信	11
退職のことば	12,13,14,15
教員の異動	16
学科生及び専攻科生の進路状況	16,17
同窓会長賞受賞者紹介	17,18,19
決算・予算報告	20,21
新常任理事あいさつ	22
事業年表・編集後記	23

会長あいさつ

(高専土木1回卒) 伊藤恒彦



会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年は「新潟県中越大震災」から10周年を迎えますが、平成23年3月に発生した「東日本大震災」から3年目を迎える中、被災地の復旧、

復興はこれからの状態であり、一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

また、近年地球温暖化の影響で日本各地では経験したことのない降雨による河川の氾濫、土砂災害などが多く発生しており、自然環境にも大きな変化が起きているのではないのでしょうか。

日本の経済もようやく「デフレからの脱却そして経済再生」を最優先に施策を展開した結果により、雇用の増大など経済は上向き状況にあると言われていますが、まだまだ国民の多くは生活実態が良くなったとは感じていない中、今後とも経済成長に努めていく事が重要ではないのでしょうか。

一方で、科学・技術の分野におきましても、今年は青色発光ダイオードの発明により、名城大学の赤崎教授、名古屋大学の天野教授、カリフォルニア大学の中村教授がノーベル賞を受賞したことは、日本の科学・技術力は世界に誇れるものであり、これからも世界に誇れる多くの科学者、技術者が生まれるものと期待しています。

母校も昭和36年の創設から平成23年に創立50周年を迎え、東日本大震災の発生により延期しました50

周年記念行事を翌年平成24年6月に記念植樹を11月に行いました。半世紀を迎え、約一万人の卒業生が技術者として社会の中において様々な立場で活躍しており、新たな歴史が始まった母校から多くの卒業生が社会で活躍される事を期待しています。

今、国内においては東日本大震災からの復旧・復興、福島原子力発電所の事故対応や毎年のように各地での自然災害への対応など多くの課題があり、さらに、近隣諸国との外交課題や世界各地での紛争など、私たちを取り巻く環境は何か起きてもおかしくない不透明な状況と思います。

このような変化する社会においては、変化を的確に捉え、より早く変化に対応ができ、社会の要請に応えられる技術者が求められるのではないのでしょうか。

最後に、長岡高専と高志会の更なる発展、会員の皆様のますますのご活躍とご健康を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



当時の長岡高専（昭和39年）

名誉会長あいさつ

謙虚にさりげなく

長岡工業高等専門学校長
渡邊 和 忠



今年、豊橋、長岡の両技大に推薦予定の学生と面接をした中に、あるコンテストで素晴らしい成果を挙げた学生がいました。しかし、彼は自己申告書の「自分の優れている点」で一切触れておらず、このことについて問うと「そんな自慢するようなことは書けません」との返事

でした。私は、こんな凄い学生が本校にいたのかと感激した反面、もう少し自慢しても良いのではと感じました。彼の申告書の内容からだけでは、恐らく審査する側も特別に優れた学生と認識できないでしょう。企業の採用試験でも同じような謙虚さで臨んだ場合、チャンスを逸するだけでなく企業も有能な人材を見逃してしまう可能性があります。個人的に良く知っている間柄であれば、信頼の出来る有能な人材であることは云わずとも分かりますが、面識のない人には分かってもらえません。

同じことが長岡高専にも当てはまるように思います。本校OBや在学生の中には本校の教員になりたいと思っている人が多くいます。また、兄弟、親子で高専生という例も数えきれません。本校を高く評価して下さっているからに違いありません。実際、長岡高専の教員は真面目で大人しいけれど、総じてしっかりと学生に向き合い、教育・研究や多方面に渡る校務にも懸命に取り組んでいます。このことを内輪だけに留めず、出来るだけ多くの人たちに知って頂くように努めることも大切です。長岡高専としては、大げさに自慢しなくても、謙虚にさりげなく優れた点をアピールしたいものです。

今年度、同窓会会員の方から中学生対象イベントを新潟市で開催してはどうかのご提案を頂きました。このご提案に伊藤会長も二つ返事で協力を約束して下さい、同窓会の強力なご支援の下、新潟市で「体験!長岡高専リケなびinにいがた」を8月30日(土)に開催することができました。お蔭さまで多くの中学生・保護者の参加を得て熱気の溢れる会となり、アンケートの結果でも全員から参加して良かったとの感想を頂いております。同窓会、教職員、学生が一体となって取組んだ熱意が中学生や保護者にも伝わり、「謙虚にさりげなく優れた点をアピール」できたのではと思っています。本当にありがとうございました。

今後とも同窓会の皆様のご期待に沿えるような長岡高専とするべく、より一層の精進をいたしますので、ご支後・ご協力を賜りますようお願いいたします。

副会長あいさつ

全国高専同窓会連絡会

副会長
(高専電気9回卒) 浅野 一 志



同窓会の副会長を引き受けてから、3年目を迎えました。同窓会と言っても、実は細々としたことは、学内に在職する卒業生である教職員の方々が担当されています。また、メールによる連絡が主で、電話で話すことが少ない私には最適の場所だと思っています。

平成25年11月23日に東京お茶の水のホテルジュラクで開催された第5回全国高専同窓会連絡会に出席して参りましたので紹介いたします。

開催にあたり、同年1月にアルジェリアの石油プラントで犠牲になった3名の高専卒業生の死を悼んで黙祷いたしました。

事務局を代表して、山本会長(広島商船高専校友会)から、「連絡会の発展充実を期するために議論を深めたい」と挨拶をされました。その後、来賓の挨拶が行われ、議事に入りました。

第2期校の50周年記念事業の紹介、および同窓会の取り組み状況について、阿南、仙台、長野、豊田、有明、高知、大分各高専の同窓会から報告がありました。

つづいて、全国高専同窓会連絡会の今後についての話し合いが行われました。事務局としての負担は大きくはないし、案内状の発送等もメールで可能なので、人件費も発生していない。また、連絡会の会費の残余金を印刷経費に充てているとのことでした。事務局としてはなんとか、連絡会から連合会にしたいとのことでしたが、まだ機関決定を経っていない同窓会が多いということもあり、平成26年11月22日(ロボコンの開催日前日)に各同窓会の意見を持ち寄ることになりました。

また、その他として、モンゴルにおける高専制度創設運動の紹介があり、終了となりました。

なお、出席同窓会は30同窓会、来賓3団体(高専機構、HNK、高専カンファレンス)、欠席連絡16同窓会、連絡なし11同窓会でした。

HNK <http://www.allkosen.org/>
高専カンファレンス <http://kosenconf.jp/>



❖❖❖❖ 50周年記念事業 ❖❖❖❖

同窓会事務局長

(高専化学11回卒) 坂井俊彦

本校は高専制度創設一年前の昭和36年4月に、前身である長岡工業短期大学として発足し、平成23年に創立50周年を迎えました。50周年記念事業は当初平成23年に実施する計画で進められておりましたが、平成23年3月11日に東日本大震災があり、記念式典や祝賀会は翌年に延期されました。

同窓生、同窓会、後援会、技術協力会、教職員などの皆様から多くのご支援・ご協力を頂き、以下の記念事業が実施されました。

- 平成23年4月1日 ログマークの制定
- 平成23年9月13日 創立50周年記念誌(高志台の50年)発行
- 平成24年6月2日 記念講演会
- 平成24年6月2日 記念式典
- 平成24年6月2日 記念祝賀会
- 平成24年11月17日 記念植樹

ログマークは学内にデザインを募集し、機械工学科 吉田智広君の作品が選ばれました。現在、本校のホームページをはじめ、学校要覧、学校の封筒、教職員の名刺などに広く使用されています。

創立50周年記念誌は写真を多く取り入れて見やすいデザインとし、本校の50年の歴史を振り返るとともに、これからの本校の発展に繋がる寄稿なども多数掲載されました。

記念講演会は長岡市立劇場大ホールに数学博士・大道芸人のピーター・フランク氏をお迎えし、「真の国際人を目指すために」と題して、大道芸を交えたとても楽しい講演会になりました。

記念式典はホテルニューオータニ長岡・NCホールにて、文部科学大臣はじめ、新潟県知事、長岡市長、県内各大学の学長、国立高等専門学校機構理事長、長岡高専技術協会会長、長岡高専同窓会長、長岡高専後援会長、学術交流協定校の黒龍江工程学院、南海東軟信息学院の関係者など(一部代理)、多くの方々にご出席頂き開催されました。

その後の記念祝賀会ではご来賓の挨拶の後、本校同窓会会長の伊藤様の乾杯で盛大に開会し、和やか且つ盛会のうちに閉会いたしました。

記念植樹は本校校門からの上り坂(通称:高専坂)に山桜を植樹いたしました。「山桜」は「染井吉野」ほどの華やかさはありませんが、春に可憐な花を咲かせます。日本の風土に適して樹齢が長く(一説には1000年にも及ぶ)、本校も山桜のように永く咲き続けるようにとの願いのもと、植樹されました。

50周年記念事業に関し、同窓会の皆様には多くのご支援・ご協力を頂きました。どうもありがとうございました。今後とも長岡高専および同窓会の運営にご協力お願い申し上げます。



長岡高専サイエンスフェスタin新潟

教務主事

(高専電気10回卒) 山 崎 誠

昨年から新潟市にある新潟県立自然科学館を会場に「サイエンスフェスタin新潟」を実施しています。この企画は、中学生等への科学知識の普及を目的として、科学実験の体験学習やロボット教室を実施するものです。また、長岡高専の教育研究設備や研究成果を紹介し、科学技術の教育や研究の現状について理解を深めてもらう目的も持っています。

昨年は、12月23日(日)に自然科学館のエントランスホールを使って、屋台方式(ブース)による科学実験の体験学習を次のようなテーマで開催しました。

- 炭電池パワーで飛ばす炭トンボ
- 光の魔術：見る方向で絵が変わるレンチキュラーレンズ
- みんなで協力 手回し発電機のすごいパワー
- 液状化現象を見てみよう
- 浮沈子のふしぎ
- くるくるモータ製作

また、3月8日(金)には講堂で「LEGO NXTロボットを用いたロボット教室およびロボットコンテスト出場ロボットの展示・実演」を実施しました。

12月23日の企画には200名を越える子供たちが実験を体験しました。この日の入館者数は1076名でしたので、多くの人に高専をアピールできたと思います。3月のロボット教室には、19名が参加しました。こちらも好評でした。

今年は、10月5日(日)にエントランスホールで科学実験の体験学習を実施しました。テーマは次のものです。

- 先端メカ工学のコマ大戦・新潟場所！で学ぼう

- くるくるまわるよ不思議モータ
- 光の魔術：見る方向で絵が変わるレンチキュラーレンズ工作体験
- お米の中をのぞいてみよう
- ミクロな生きもの展「キレイな水の作り方おしえます」

当日は、各ブースに100~180名の来場があり、自然科学館の入館者は1277名でしたので、長岡高専の広報も実施できたと思います。

ロボット教室の方は、3月7日(土)に開催します。昨年同様、LEGO NXTロボットを用いたロボット教室およびロボットコンテスト出場ロボットの展示・実演を予定しています。

このサイエンスフェスタとは別に、今年は8月30日(土)にUXレクスタを会場に「体験！長岡高専リケなびinにいがた」を開催しました。この企画は、夏休みに実施しているオープンキャンパスが今年は8月9日(土)、10日(日)と新潟祭りの日と重なったため、新潟市での特別企画として実施したミニオープンキャンパスです。こちらの企画には、伊藤会長はじめ新潟市の同窓会員にも多大なご協力をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

長岡高専を志望する中学生が減少する中で、多くの小学生・中学生・保護者に長岡高専を知ってもらう広報も意識して実施しています。

これらの企画には、同窓会から科学実験に使う消耗品やスタッフの弁当代等を援助していただいております。お礼申し上げます。

今後ともご支援とご協力をお願い致します。



高専ロボコン2014 奮闘するも全国大会出場ならず

ロボティクス部顧問

(機械工学科) 山田 隆一

平成26年10月19日(日)、千葉市千葉ポートアリーナを会場として、高専ロボコン2014関東甲信越地区大会が開催されました。地区9高専(10キャンパス)から各2台、計20台のロボットが集結し、熱戦を繰り広げました。今回のテーマは「出前迅速」といって、ロボットが出前先まで蕎麦の蒸籠を配達するというものです。配達路はスラロームコース、角材で作られた凹凸コースそして坂を登って下りる傾斜コースの3種類のコースからなり、ロボットはそれらの難所を乗り越えて蒸籠を運びます。しかも、蒸籠を固定することはできず、お盆の上に積み上げてバランスをとりながら運ばなければなりません。3分間でできるだけ多くの蒸籠を運んだチームの勝ちとなります。

本校からは上級生を中心とした必勝チームと下級生を中心としたチャレンジチームが出場しました。4月下旬のテーマ発表を受け、各チームでアイデア会議を重ねて仕様を決定し、5月には設計・製作に入りました。若手の顧問教員の意見も取り入れながらほぼ順調に製作が進み、8月9日(土)、10日(日)のオープンキャンパスにおいて、必勝チームはスラロームコースと角材コースをクリアするところを披露することができました。チャレンジチームは製作

が遅れ気味でスラロームコースのクリアのみでした。しかし、ここからが難題でした。傾斜コースをなかなかクリアできず、9月終盤になってようやく両チームとも傾斜コースを乗り越えることができました。その後、調整と練習を重ね、10月19日の本番に臨みました。今年は両チームとも出来がよく、自信を持って競技に臨んだのですが、他高専のロボットが予想以上にレベルが高く、本校両チームとも初戦において接戦の末敗退するという残念な結果となってしまいました。もう一步完成度を高める、120%の自信が付くまで練習する、など最終段階の努力が足りなかったのだと思います。

同窓会の皆様には毎年期待していただきながら、ここ5年間全国大会出場が叶わず、まことに申し訳ありません。しかしながら、今年の学生たちは敗れた後、涙を流して悔しがっていました。こんな光景は最近では見られなかったものです。学生たちの本気度がとても高いことが分かりましたので、来年こそやってくれると期待しています。また、我々顧問教員も何が足りなかったのかを反省し、指導体制の強化を図りたいと考えています。今回の結果に懲りず、今後ともご支援、ご声援のほどお願い申し上げます。



今年度から第1学年に混合学級を導入

教務主事

(高専電気10回卒) 山崎 誠

今年度(平成26年度)から、第1学年のクラスに混合学級を導入しました。混合学級は、従来の学科別クラスではなく、所属学科の異なる学生によって構成されるクラスです。全国の高専では、約半数の高専が低学年でこの制度を導入しています。混合学級を実施している高専では、混合学級を組む学年が1~2学年の2年間、1学年あるいは2学年のみの1年間のところがあります。本校では、専門学科への接続性も考慮し、1学年のみを混合学級とすることにしました。

混合学級では、一つのクラスに5学科の学生が混在しています。入学試験は従来通り行い、所属学科が決まった後に、クラス分けを行っています。混合学級のクラス分けは、所属学科、入試成績、男女、寮生と通学生の割合がなるべく均等になるよう行っています。通常はこのクラス編成で5学科共通の一般科目(選択科目を除く)の授業を受け、専門科目は所属学科に分かれたクラス編成で授業を受けます。今年度は、週2日(火曜日と金曜日)半日ずつ学科別授業を行う時間割を組んでおり、その時間は所属学科に分かれて実験実習や専門科目の授業を受けています。混合学級は1年生のみです。2年生以降は従来の学科別クラス編成となります。

混合学級の実施は、学科の枠を超えた人間関係の構築を目的にしています。高専では、クラブ活動や寮生活を除くと他の学科の学生と交流することがほとんど無いまま卒業することになります。高専教育は工学の専門教育として高い評価を得ていますが、一方で学生の視野の狭さや人間間の交流の狭さが課題として指摘されてきました。混合学級はこれらの課題を解決する1つの方法と考えられています。

また、高専は、10代後半という精神的にも肉体的にも人生で最も成長がみられる時期を過ごす場所でもあります。5年間という長い期間を同じ環境の中で過ごすわけですので、ともすると生活が単調になります。低学年においてクラス編成を変えることにより、単調な学校生活に変化と刺激をもたらす、精神面での成長や人間形成への効果が大きいと考えています。

1年間という短い期間であるとはいえ、技術者になるための学業生活の最初の年に混合学級を経験し、人間関係の幅を拓けておくことは、長岡高専での学業生活、技術者としての基本的な人格形成、卒業後の人間関係など、様々な面に利点をもたらすと期待しています。

長岡高専、ついに敷地内全面禁煙

長岡高専・校長

渡邊 和忠

日本では、文部科学省の調査によると2008年の時点で国公立の幼稚園や小中高校、特別支援学校などを合わせた全国の4万9892施設の82.6%が敷地内全面禁煙を実施している。全国の多くの高校で敷地内全面禁煙にしているにも拘らず、同じ年頃の子供たちのいる高専で敷地内全面禁煙を実施しないことには疑問を持たざるを得ない。特に高専には既に成人した学生もおり、良い意味でも、悪い意味でも下級生は上級生から大きな影響を受ける。また、寮でも様々なことを上級生から学ぶ。上級生から下級生への喫煙の連鎖を断ち切るためにも、敷地内全面禁煙に踏み切ることとした。

本校では、2012年度に敷地内全面禁煙を決め、2年間の周知期間の後、今年度から実施した。タバコは健康被害を及ぼすだけでなく、習慣性があり、一度、吸い始めると禁煙にはかなりの努力を要する。このため、2012年時点では既に喫煙していた学生もおり、いきなり敷地内全面禁煙にするとかなりの混乱を生じ、また周辺地域に迷惑をかける恐れがあった。そこで周知期間を置き、子供たちが新たに喫煙を始めないように配慮した。

本校の最終的な目的は、本校の卒業生、修了生が幸せな人生を送れるように学生を育てることにある。習慣

性があり、健康に極めて深刻な影響を与える喫煙を高専と云う教育の場で学生たちが憶えること、言い換えれば学生が喫煙を憶える場を提供していることは、彼らの将来に禍根を残す恐れもあり容認できないと考えた。もちろんタバコは嗜好品として認められており、成人した学生が高専以外の喫煙の認められているところで喫煙することは個人の自由である。本校の同窓会員にも多くの喫煙者がおられると思う。全く禁煙するつもりなどない人もおられるであろう。一方、嘗ては喫煙して努力の末、止められた方も多いのではないだろうか。もしかしたら喫煙によって健康被害を受けた方がおられるかも知れない。歳をとってから後悔するようなことは、高専で憶えて欲しくないとの強い想いである。何卒、同窓会員の方々のご理解、ご協力をお願いします。



還暦OB健在！—校舎見学会・同級会 開催—

(高専機械9回卒) 阿部満夫

【はじめに】

機械科1組昭和45年入学生有志は、還暦の今年平成26年10月18日(土曜日)『還暦・校舎見学会・同級会』を開催しました。

ここに、同窓会の皆様に開催を報告します。

【入学の年】

入学の年昭和45(西暦1970)年は日米安全保障条約の自動延長の年にあたります。2週間の休校の後、授業は再開されましたが、騒然たる世相は、本校では学生準則に関わる「学園紛争」として現れました。

やや早熟に、「高専でも何かが起こる」と校門をくぐった記憶があります。

【卒業の年】

今年高専卒業後40年となりますが、卒業の頃は第一次オイルショックの影響で、内定の取り消しや自宅待機により、卒業間近の学生が就職先を探したりしていた時代でした。

【校舎見学会に至る経緯】

同級会は各地で行われていましたが、2年前は久しぶりの長岡の地、割烹梅川屋での開催としました。

今年の開催で還暦を迎えることから、「記念の会に」との思いは強く、前回梅川屋での同級会は、「次回は還暦の年に校舎見学」を合言葉に閉会し、今年校舎見学会開催のはこびとなりました。

記念の会であることから、一泊二日の日程も自然の流れでした。



【同窓会への校舎見学会協力要請】

校舎見学会にあたり、4月以降総務担当の同窓会学内理事と相談しながら、校舎見学会の準備をすすめました。

前総務担当理事の一般教育科高橋剛先生・現総務担当理事の電子制御工学科上村健二先生には、大変お世話になりました。紙面を借りて高橋先生・上村先生に御礼申し上げます。

会員へのアンケート結果により設定した見学希望ルートに基づき、上村先生には、見学希望研究室のガイドとして、卒業生教職員への協力要請もお願いしました。

【校舎見学会】

ナビゲーターの上村先生はじめ、休日の研究室ガイドを快諾いただきました電気電子システム工学科中村奨先生・長部恵一先生・機械工学科金子健正先生におかれましては、校舎見学会へのご協力誠にありがとうございました。御礼申し上げます。

40年の年月を経て校地を踏む参加者もあり、研究室ガイドの皆様には、脱線することも多々あった参加者からの質問にも丁寧にお答えいただき、懐かしい校舎のあちこちをまわり、校舎見学会は終了しました。

【同級会】

校舎見学会終了後は、長岡地区の旅館業振興のため、社交界からの特別ゲストもお迎えして、蓬平温泉和泉屋に場所を移し、同級会を開催しました。

会員への出口調査によれば、幸いにも、特別ゲストの半数は合格とのことで、幹事留任の声もなく穏やかに、次期幹事指名の運びとなりました。

当日は高龍神社・新社殿のお披露目とも重なり、思い出深い同級会は深夜まで続き翌日の朝食後、解散しました。

【終わりに】

還暦の年はサラリーマン定年退職の年でもあり、懐かしさから群れたがる年頃ではありますが反面、その後仕事を離れると連絡不通となることも多いのが実情です。

還暦同級会は、『今後も交流』を確かめ合う場所でもあります。

還暦前の卒業生の皆さんもいかがですか。

部活動紹介

女子バスケットボール部の活動報告とお礼

物質工学科(バスケットボール部顧問)
(高専化学15回卒) 鈴木 秋 弘

2014年5月現在、長岡高専学生総数は1,112人、内数で女子学生が156人在籍しています。人数としてはまだ少数ですが、高専大会では女子の大会も盛んに開催されており、本校でも積極的に参加を推奨しています。しかし、団体種目の場合、中学まで女子選手として活動してきても、高専に女子部が無いので、マネージャーしかできない、選手が集まらないなど、いろいろな問題がありました。そんな中、バスケットボール部では、女子学生から、マネージャー兼選手として活動したいという申し出がありました。いざ、活動を開始すると男子に混じって行う練習メニュー、場所等、大変な場面もありましたが、頑張り抜き、昨年、今年と継続して高専大会に参加しています。そして、今秋は、高校大会の部に、本校+長岡工業高校+栃尾高校の合同チームを編成して参加する予定です。部活動の継続と勉学の両立は大変ですが、時間の使い方、体力などプラス

効果の方が大きいと思います。この活動を見て、さらに女子部員が増えて、単独で大会に参加できるようになると、もっとよいと思います。結果等は、本校HP等でも公開しております。今後とも、応援よろしくお願い致します。

最後に、活動・大会参加に必要なユニフォームの購入では、同窓会から多大なバックアップをいただきました。選手ともどもお礼申し上げます。

(高専地区大会女子の結果)

2013年関東信越地区高専体育大会
(平成25年7月6日(土)、7日(日) 於ひたちなか市)
結果：1回戦 19：95 (勝ちvs.産技品川)、
2回戦 54：53 (負けvs.茨城高専)
2014年関東信越地区高専体育大会
(平成26年7月12日(土)、13日(日) 於小山市)
結果：1回戦 51：98 (負けvs.長野高専)



平成26年度 関東信越地区高専体育大会 開会式



1回戦 長岡高専(黒) vs. 長野高専(白) の試合

ハンドボール部の紹介と近況報告

電子制御工学科(ハンドボール部顧問)
(高専機械26回卒) 佐藤 拓 史

ハンドボール部は昭和49年の第1回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会より参加している歴史ある部です。平成26年までに27回の全国大会出場を果たし、平成9年には全国優勝を果たすなどの結果を残しています。

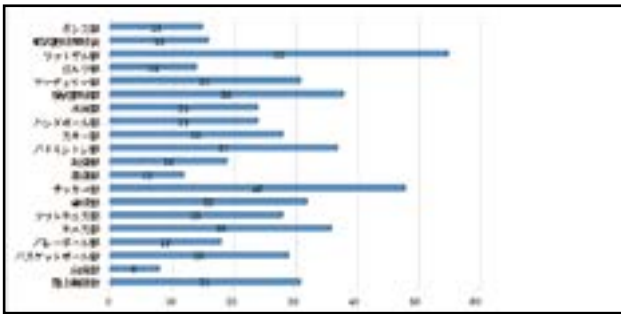
しかしながら、活動場所であったハンドボールコートに6号館が建設されてからは、活動場所の制

約などにより練習量も減り、全国出場から遠ざかっています。また、近年の運動部離れも手伝って、一時は部員不足による活動停止(廃部)の危機もありました。しかし、現在は有望な下級生の部員増加により、徐々にではありますが活発さも増してきています。近い将来には全国大会出場の報告ができるよう、日々の練習を頑張っていきたいと思います。

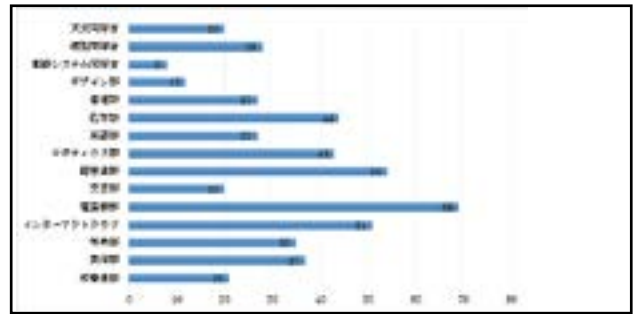
クラブ活動状況

2014年5月現在の加入実績は以下の通りですが、数字と活動状況との相関が見られないのが残念なところです。高専時代に頑張ったことの一つにクラブ

活動の一場面を語れる学生になって欲しい、同窓会長賞を目指して欲しいと思います。



体育会系19クラブ、1同好会 (543名)



文化系15クラブ (496名)

体育大会入賞者

平成23年度 全国高等専門学校体育大会

- ◎水泳
 - 男子400m自由形 7位 南 裕也
 - 男子800m自由形 5位 南 裕也
 - 8位 岡 伸哉
- ◎陸上
 - 男子4×400mリレー 7位
 - 男子110mハードル 優勝 須藤 大翔
 - 男子200m 6位 須藤 大翔

関東信越地区高等専門学校体育大会

- ◎野球 2位
- ◎バドミントン
 - 女子団体 2位
 - 女子S 優勝 金井 綾香
- ◎柔道
 - 男子団体 2位
 - 個人男子60kg級 優勝 清水 隆史
 - 個人女子52kg級 2位 小林 千玲
- ◎ハンドボール 2位
- ◎水泳
 - 男子100m背泳ぎ 優勝 山崎 脩道
 - 3位 石川 亮
 - 男子200m平泳ぎ 3位 西山 真史
 - 男子400m自由形 3位 南 裕也
 - 男子800m自由形 優勝 南 裕也
 - 3位 岡 伸哉
- ◎陸上
 - 男子4×400mリレー 2位
 - 男子400m 2位 池田真太郎
 - 男子110mハードル 優勝 須藤 大翔
 - 男子三段跳 優勝 前田 一樹

平成24年度 全国高等専門学校体育大会

- ◎水泳
 - 男子400m自由形 10位 大倉真一希
 - 男子800m自由形 7位 大倉真一希
 - 9位 岡 伸哉
- ◎陸上
 - 男子4×400mリレー 6位 高野・高野・小林・須藤
 - 男子200m 8位 須藤 大翔
 - 男子110mハードル 優勝 須藤 大翔 (大会新記録)
 - 男子三段跳 2位 前田 一樹

関東信越地区高等専門学校体育大会

- ◎ソフトテニス
 - 男子個人戦 3位 山野・田之口組
- ◎ハンドボール 2位
- ◎バドミントン
 - 男子団体 3位
 - 女子団体 2位
 - 男子ダブルス 3位 宮部・ビンウェイ組
 - 女子ダブルス 優勝 金井・岸組
 - 女子シングルス 3位 金井 綾香
 - 3位 岸 えみり
- ◎バスケットボール 2位
- ◎柔道
 - 男子団体 優勝
 - 男子60kg級 優勝 清水 隆史
 - 男子90kg級 優勝 渡邊裕太郎
 - 2位 品川 彰
 - 3位 森山 諒
 - 男子90kg超級 3位 五味凜太郎
- ◎水泳
 - 総合 3位
 - 女子200mフリーリレー 3位 大滝・古川
 - 男子400m自由形 2位 箭内・石丸
 - 男子800m自由形 優勝 大倉真一希
 - 2位 大倉真一希
 - 男子200m平泳ぎ 2位 岡 伸哉
 - 男子200mバタフライ 3位 西山 真史
 - 女子50m背泳ぎ 2位 大橋 直矢
 - 女子100m平泳ぎ 2位 箭内 天依
 - 石丸 美穂
- ◎陸上
 - 男子4×400mリレー 2位 高野・高野
 - 男子200m 3位 小林・須藤
 - 男子110mハードル 優勝 須藤 大翔
 - 男子三段跳 3位 須藤 大翔
 - 前田 一樹

平成25年度 全国高等専門学校体育大会

- ◎陸上
 - 男子三段跳 3位 前田 一樹
- ◎バドミントン
 - 女子個人戦ダブルス 3位 金井・岸組
- ◎水泳
 - 女子200mフリーリレー 3位 清水・川津
 - 男子400m自由形 7位 箭内・石丸
 - 男子100m平泳ぎ 7位 大倉真一希
 - 西木 航

関東信越地区高等専門学校体育大会

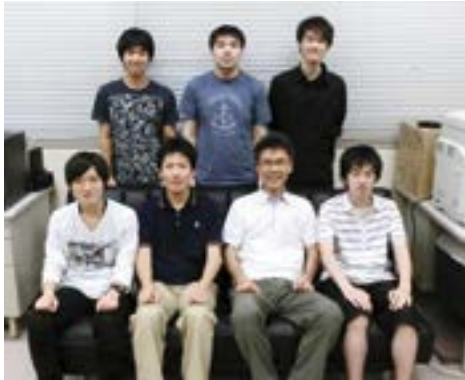
- ◎野球 3位
- ◎バドミントン
 - 女子団体 優勝
 - 女子個人戦ダブルス 優勝 金井・岸組
- ◎バレーボール 2位
- ◎ハンドボール 2位
- ◎柔道
 - 団体 2位
 - 個人男子60kg級 優勝 清水 隆史
 - 2位 佐藤 峻登
 - 個人男子90kg級 2位 浦井孝太郎
 - 個人男子90kg超級 2位 品川 彰
- ◎水泳
 - 女子200mフリーリレー 優勝 清水・川津
 - 男子200m自由形 3位 箭内・石丸
 - 男子400m自由形 2位 武田 雅平
 - 3位 大倉真一希
 - 男子800m自由形 優勝 岡 伸哉
 - 2位 大倉真一希
 - 男子100m平泳ぎ 優勝 岡 伸哉
 - 優勝 西木 航
 - 3位 西山 真史
 - 男子200m平泳ぎ 2位 西山 真史
 - 男子200mバタフライ 2位 武田 雅平
 - 女子100m平泳ぎ 2位 石丸 美穂
- ◎陸上
 - 男子800m 3位 平山 健太
 - 男子三段跳 優勝 前田 一樹
 - 男子砲丸投 3位 高島 魁人



研究室紹介

情報伝送技術の世界は変わる！

私の情報伝送研究室での大テーマは「ワイドバンド通信システム」の研究です。この分野では、皆さんも利用している携帯電話、スマートフォン、無線LANは、CDMA、OFDM、LTE、プラチナバンド、ダイバーシチと、どんどん新しいものが生まれ実用化されています。これらの名前はテレビのコマーシャルにも利用されるほど、若者の流行語になっています。これらの通信技術はどこが出发点でしょう。それは広い周波数帯域を一度に使用するという発想(ワイドバンドシステム)から生まれています。ワイドバンドにすると情報信号をいろいろな形にしたり、加



情報伝送研究室／電子制御工学科

(高専電気9回卒) 太刀川 信 一

工ができます。本研究室では、このワイドバンドで、一味違った信号形態を研究しています。電波を人間の音声会話のように、同じ周波数帯域で、同時に話しても通信できるようにする。もちろん信号間の干渉が発生するわけですが、それは得意の信号処理で解決させる。通信速度も現在のLTEやLTEアドバンスドよりも速く、さらに高機能な、そんな夢の情報伝送方式を目指しています。

現在のメンバーは、専攻科1年生が1名、本科5年生が5名です。理論、シミュレーション検討、さらに、送受信機の試作検討を進めています。若い学生は発想が面白い。この前、ある学生が先輩の残した回路試作をしていると間違っ一部を省いて作ってしまいました。ところがその回路がうまく動作する。原因をいろいろ考えた結果、新しい理論、仕組みによって動作できること、回路が簡単化できることを発見しました。すばらしい！私もうれしくなりました。また、研究発表で学生と海外(ハワイ)にも行ってきました。時々、学生による学会発表賞もいただきます。こんなことをしながら、学生とごちゃごちゃやっています。情報伝送技術の世界はどんどん変わっていきます。本研究室からなにかが生まれることを乞うご期待！

物質工学科 材料物性研究室

平成13年に母校の物質工学科に着任し、研究室を開設して14年目を迎えました。化学・物理・電気の複合的な研究室として新しい化合物を使った薄膜太陽電池の開発を主な研究テーマとしています。最近では、(独)科学技術振興機構からの大型研究費による「レアメタルフリー新型化合物系太陽電池の開発」や「ペロブスカイトを用いた有機-無機ハイブリッド太陽電池」に取り組んできており、まだ世の中にない新しい太陽電池を生み出そうと4年生後期から研究室に配属された若い学生たちがアイデアを出しあって日夜、研究に取り組んでいます。特に希少元素や毒性元素を含まない銅-スズ-硫黄からなる新しい化合物半導体 Cu_2SnS_3 (CTS)を用いた新型薄膜太陽電池の開発では、世界トップの変換効率を報告しています。これら日々の成果をもとに5年生や専攻科生が、国内外の学会に積極的に参加しており、今年度は専攻科1年生が国際会議ICTMC-19の英語での口頭発表に挑み、講演賞を受賞するなど活躍しています。

現在、長岡高専では電気電子システム工学科片桐裕則教授を中心に学科の枠を超えた研究グループProject CZTSを立ち上げ、新しい太陽電池の開発に

物質工学科

(高専電気28回卒) 荒木 秀 明

取り組むとともに、学科・専攻科横断型一貫教育プログラム(新エネルギー創成教育プログラム)に取り組んでいます。本教育プログラムは、幅広い専門知識・技術力を駆使できる人材の育成を行うため平成25年度後期から導入され、コースに参加した学生は、学科の枠を超えた複数の教員による研究指導を受けることができ、異なる分野の知識・技術を修得し新たな発想・複眼的思考を身につけることが期待されます。始まったばかりの新たな取り組みですが、今後の研究・教育両面でこれからの高専に乞うご期待ください。



今の仕事と10年後に向けた決意

アステラス製薬(株)

(高専制御8回卒) 佐藤 壘



高専時代はロボット製作一筋の生活をしていました私ですが、卒業して14年が過ぎようとしている今、ロボットとは離れ、薬づくりに携わる研究者として、汗を流しています。私の部署はシードディスクカバリー研究室といいます。簡単に言えば新しい薬の企画からはじめて、薬の一番最初

の候補分子を作り出すところまでを行う部署になります。世の中で今、薬が求められているのはどのような疾患であるのかを調査し、科学的な視点からその疾患を治すためにはどのような生体分子を標的とすればよいのかを考えます。そのうえで、その標的となる生体分子に対してどのような人工分子(薬)を作って、生体反応を制御し疾患を克服できるのか、そのストーリー・仮説を立てます。その後社内プレゼンをして予算を獲得し、実際に薬の候補分子を作り出してその仮説を検証するという作業、これが私の仕事になります。仕事に求められるのはとにかく「アイデア」です。どのような薬を設計すれば、疾患を治す薬になるのか、分子レベルでのモノづくりのアイデアをひねり出せるかが第一の勝負です。第二の勝負は実験デザインです。決められた時間の中で仮説を説得力をもたせて証明できるような実験デザインを組み、実際に実験して結果を導く必要があります。頭がおかしくなるくらい、考えることを要求される。そしてその次は汗を流して実験をする。そういえばこんなことは高専時代にロボコンや卒業研究でさんざんやってきたように思います。振り返ってみると、どんな分野でも一生懸命やってきたことは自分に返ってきているものですね。逆におろそかにしてきた英語には今も悩まされます。努力はすぐには報われないことの方が多いけど、長い年月で考えると必ず自分に戻ってくる。そんな風に自分を励ましながら毎日を過ごしています。残念ながら私は未だ道半ばで、こちらで報告できるような仕事は何一つ残していません。ですが、次の10年後には、「私は社会に出てこんなことを成し遂げました」といえるような仕事をしたいと思います。

地元企業で世界に挑戦!

古河マグネットワイヤ(株)

(高専物質5回卒) 長井 雅行



私は2003年に高専を卒業しました。高専時代はあの独特で自由な校風のもと、自分なりに自由に過ごしていた記憶があります。卒業後は技大へと進み、2007年に実家近くの会社に就職して今に至ります。今年には長男が誕生し、家族が増えました。まだ社会人8年目、修行中の身ではありますが、公私共に忙しくも充実した日々を送っております。

さて、社名の一部にもなっておりますが私の勤める会社はマグネットワイヤの製造を業としており、私はそれに付随する技術補助、ならびに開発業務に携わっています。マグネットワイヤとは導体の表面に絶縁皮膜を焼付塗布した絶縁電線の一種です。用途は様々ですが主として各種コイルの材料として用いられ、電磁石となって機能を発揮することからマグネットワイヤと呼ばれています。私の勤務する新潟市南区(旧白根市)にある白根製造部では比較的細かいサイズ範囲(直径0.02~0.60mm)のワイヤを製造しております。

弊社工程を簡単に説明しますと、まず購入した2.6mmの材料銅線を引抜き加工により所定のサイズに加工し、その表面に絶縁ワニスを一様に塗布、加熱炉を通して乾燥/硬化反応を行うことで絶縁皮膜が形成され、絶縁電線が完成します。私どもがつくるのはそこまでですが、これをお客様が様々なコイルに仕上げ、あるものは自動車に、あるものはスマートフォンに、といったように、弊社の製品は電装関係の部品や電子機器類にあまねく使用されており、その要求に応じて様々な特性を発揮しています。機械の内部は暗く、時として高温となる過酷な環境下でワイヤはじっと電圧に耐えております。

電子部品材料というと電気工学の知識が必要では?そんな風に考えていた時期が私にもありました。しかしそんなことはありません。もっとも重要なのは熱硬化性プラスチックから成る絶縁皮膜なのです。皮膜硬化条件の最適化や硬化後の皮膜特性解析、その他絶縁皮膜に関する様々な課題を解決するため、種々の分析装置を駆使しております。これら機器の操作や分析結果の解析にあたっては高専で学んだ有機化学の基礎知識が大変役立っています。暗く、熱い工場の中でじっと耐えつつ、これからも高専で学んだ知識をフル活用して日々の業務に邁進する所存です。

縁



一般教育科

岩瀬 誠一

人生に「もし」は無いかも知れないが、大きな分岐点は確かにあったと思う。愛知県出身の私が、なぜ長岡にいるのかを考えると何か不思議な縁を感じる。もし新潟大学・

数学科に合格していなければ、今とは違う人生を送っていたはずである。無事、新大に進学し、長岡で暮らすようになったのだった。

長岡高専でははじめの頃を思い出してみると…

1年目：高専に慣れようと夢中で過ごしていた。見た目は学生とあまり変わらなかったかも知れない。卒業式の日、校長に握手されそうになった。冬は慣れない雪と連日格闘していた。

2年目：初めての担任。新入生合宿研修で行ったオリエンテーリングでは、担任もチームを作り学生と一緒に巻の研修センターの周辺を走り回った。学生も元気であったが、先生方も元気いっぱいであった。

あれから30数年が過ぎようとしている。高専は個性豊かな先生が多く、少々変わっていても目立たず、おおらかに過ごせたと思う。今まで助けて頂いた先生・職員・学生の皆さんに、ありがとうございますの感謝を込めて…。

定年にあたり思う



電子制御工学科

石田 博樹

1985年（昭和60年）の4月に長岡高専に着任した当時、高専の設立趣旨や存在意義が疑問に思えてなりませんでした。着任して直ちに、私は自分に課した義務として以下の

ことを決意しました。(1)高専の実像を一般社会に公開する。(2)高専に不適應で悩む学生を救う。(3)研究者としての自分の姿勢を失わない。(4)若手教員に研

究者としての姿勢を維持させる。そのため、私は、今日までに、高専制度の問題点とその打開策を、教育雑誌やインターネットにて忌憚なく展開し、それらには賛同の意見を全国からたくさん頂いて来ました。今、私は、上記の義務を果たせたと思います。学生には、常に、就職よりも大学編入を勧め、また、高専に不適應な学生には「進路変更は決して敗北にあらず」と説得し、当人の希望する分野への進路変更を積極的に勧めてきました。高専は創立当初から多くの重大な矛盾を抱えています。高専創立50周年を“祝賀”だけで捉えることはできません。高専に関する文部科学行政は行政責任を果たさなければならぬと思います。

10年を振り返って



物質工学科

加藤 正直

10年前に前任地から長岡高専に転任し、今年度で定年となりました。思えばこの10年は大変な10年間でした。高専ではこの間、2004年の大水害から中越地震、中越沖地震に

見舞われ、学校の再建にあたっては学生も教職員も多大な苦勞を強いられたことはご存知の通りです。大型ダンプが走り回らる中での授業と卒業研究は今となってはいい思い出です。

これらの自然災害は修理すればなおりますが、高専にとっては、内部の動きのほうが将来的には大変

な事態を引き起こすことになるかもしれません。15歳人口の減少と「ゆとり」教育の弊害、成績の相対評価から絶対評価への切り替え、研究条件の悪化などです。長岡の誇りである米百俵の精神はどこに行ったのでしょうか？国の教育行政の無定見さは目に余るものがあります。今後、高専はますます厳しい時代を迎えると思いますが、大丈夫なんでしょうか。

とはいっても、個人的にはこの十年でいくつかの学術論文と特許を公表し、2冊の教科書を上梓し、また国際会議で発表することも出来ました。これは、物質工学科の学生たちと、とりわけ私の研究室を選んでくれた学生のおかげでもあります。改めて感謝したいと思います。

私は今年度で退職しますが、教職員の皆さんの幸運を願っています。

Always冬の燠火



教育研究技術支援センター
高橋 恭一

私達の幼年時代、冬の暖はコタツだけで燃料は練炭か豆炭でした。前日の煮炊きに使った薪の燠火を二次利用し練炭等への着火、或は燠火コタツとしてそのまま利用されていました。

電話も自家用車もない時代、情報通信技術の世界では東京タワーが建造されテレビ放送が開始されま

した。

あれから五十年、そのアナログ波は停波、地上デジタル放送に替わり、東京タワーからスカイツリーに替わろうとしています。この例を待たずとも科学技術のステージが著しく変貌する中、高専教育もまた更にバージョンアップしていくことが社会的にも必須と思われま。この激動のなか、私は殆どの時を高志台で過ごさせて頂きました。優秀な学生諸君と教職員各位に支えられて「人生の大きな節目」を迎えることが出来ありがとうございました。この気持ちの反面、冬木立の様な心寂しさも残ります。もう暫らくは、既述した燠火の心境で勤めさせて頂きます。宜しく願いいたします。

ありがとうございました。



学生課 保健室
石丸 のり子

人間に興味を持って医療の道に進み、結婚、出産を経て路頭に迷っていた人生半ばに、縁合って、長岡高専にお世話になってから20年、医療現場から学校現場の人たちに会い、考えることの刺激を学生さんや皆様から頂

き、また学生さんからは心身の成長期を共に享受することができたことは、私にとってかけがえの無いものとなっています。

振り返ると良い日々でした。いろいろあって人間っていいなと思う今日、定年という受け入れがたい不気味で不思議な気持ちですが、その意味はこれから体感して行くものだろうと、先もわくわくしています。

今まで皆様から、ご支援して頂きここまでこれたこと心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

退職のことば H24年退職

充実した日々とよき思い出



機械工学科
近藤 俊美

昭和49年4月に本校に着任してから、早39年の歳月が流れ、この3月に定年退職することになりました。この間、多くの卒業生と教職員の御支援をいただきながら、教育、

校務、研究にと、それぞれ前向きで努力してまいりました。お蔭様にて、充実した日々をすごすことができました。心より御礼申し上げます。

これまでの教員生活を振り返って、教育、校務、研究など、それぞれについて、多くの良き思い出とお礼を申し上げたい気持ちで一杯ですが、紙面がまったく足りません。そこで無骨ではありますが、仕事以外の楽しい思い出について少し述べ、感謝の気持ちに換えさせていただきたいと思ひます。

教員時代を通して、学生や同僚諸氏との山登り、スキー、マージャン、飲み歩き等、楽しい思い出だけでした。山登りについては、多い時で年間40日も入山していました。ちなみに、勉学の方はこれに勝るとも劣らず専念させていただきました。山岳部顧問であった私は、現在、当時の部員と時折会合し、30年以上前の思い出と共に、毎回話題が尽きることがありません。またその頃、学内の同僚と立ち上げた“山の会”のメンバーとの毎年の夏登山もまた大変楽しく、良き思い出となりました。

振り返って見ますと、私は小学校時代から、内地研究員（東北大学）を含む大学時代、高専教員時代までを通して、多くの恩師、良き先輩・同僚諸氏、学生（卒業生）に恵まれました。ここ数年来、これらの方々とは歓談する機会があり、気持ちを新たにすると同時に安堵しているところです。

おわりに、教職員各位ならびに卒業生・在学生諸君のご健勝と長岡高専のご繁栄を祈念して、退職の挨拶とさせていただきます。

退職にあたって

物質工学科

丸山 一典



退官に際し、学生との数々の関わりが思い出される。担任として、山岳部およびブラスバンド部の顧問として学生とともに成長できる機会が得られたことに感謝している。

当初は学生との接し方に戸惑いを感じたが、少しずつ彼等、彼女等の考え方を知るにつれて、驚いたり感心したりすることもしばしばであった。担任としては、学園祭、体育祭、遠足、球技大会でのひたむきな姿や卒業式で証書を受け取る時の晴れがましい表情が印象深い。少しずつ身内感情のようなものが育ち、現在の様子を案じながらも脳裏に上る。山

岳部の顧問としては、富士山登頂と燧ヶ岳と至仏山に登頂した時の体験が思い出深い。学生の様子や天候の様子と自分の体調を気にしながらの登山で、自分の体力の限界を感じつつ、一方で学生に引っ張られるように登った記憶は、懐かしいとともに自分にとっても今後の人生の拠り所とさえなり得そうな経験であった。ブラスバンド部の顧問としては、團伊玖磨作曲の祝典行進曲、ホルスト作曲の吹奏楽のための組曲第一番、第二番など、それまでは聞いていただけで、演奏する機会を想像すらできなかった曲を指揮して演奏することができた。研究については耐熱性有機偏光膜の作製に関する研究、などを継続して行うことが出来、科研費テーマに関連して何度も海外へ調査に行く機会を頂いた。研究に取り組んでくれた研究室の学生諸子にも感謝したい。海外に関しては、学生を引率してマレーシアを訪れた経験も忘れ難い。書き出すととりとめないが、今後の長岡高専の発展、展開を心から祈念してペンを置く。

退職のことば H25年退職

あれから38年と6ヶ月

機械工学科

山田 隆一



昭和50年10月、石油ショックのあおりを受けて内定取消となった私を長岡高専が拾ってくれました。あれから38年と6ヶ月が経過しようとしています。この間に校長先生が

8人替わりしました。さすがに長かったなと思います。

勤務し初めの頃は学校全体がのんびりした雰囲気、一生懸命研究する教員はごくわずか、そういう私は部活動の指導と称して学生と一緒にテニスを楽しんでいました。そんな雰囲気が徐々に変わって

いったのは専科大学の話が出てきた頃からでしょうか。これからは博士の学位が必要ということで、のんびりしていた私も遅まきながら研究に力を入れるようになり、平成8年によく学位を取得することができました。その後は休む間もなく、学級担任、寮務主事補、学科長、学級担任、教務主事、総務主事ととても忙しい日々を送り今日に至っています。

思い返せば頑張っているとき、苦しいときはいつも側に支援してくれる人たちがいました。家族、友人、仲間、先輩、後輩、学生といった周囲の人たちにとっても恵まれた勤務生活でした。紙面を借りてお世話になった方々にお礼を申し上げます。

再雇用で引き続き勤務致しますので、本当に高志台を去る日までもう少し皆さんの仲間がいさせてください。

長かった教務関係

物質工学科

栗野 一志



「とうとう」というか「やっと」というか、退職の時が来た。振り返ってみると教務主事（2年）、専攻科長（4年）、教務主事補（4年）、専攻科委員（専攻科小委員会を含め6年）、教務委員（6年）など教務関係延べ22年（在職期間の半分以上）、科主任（2年）、担任（7年）の他、学科改組・専攻科・地域交流室（地域共同テクノセンターの前身）などの準備

委員として学校の重要施策の立ち上げにも長年関わってきた。

特に思い出に残るのは「推薦制度の導入」（教務主事補）、「進級基準の改正」・「 Semester 制の導入」・「学修単位の導入」（教務主事）、「JABEE認定」（専攻科長）などであり、他高専の教務主事・専攻科長からのアドバイスと本校教職員のご協力を頂きなんとか乗り切ってきた。ここに深く感謝申し上げます。

ここ数年は忙しい校務から離れ、学生の「基礎学力の向上」を目指し、講義と有機化学問題集の作成に力を注いできた。この3月にはやっと上梓できる予定である。

退職してもあと1～2年は本校にお世話になりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

長岡高専の21年間

環境都市工学科

塩野 計司



私が長岡高専に採用されたのは平成6年の4月のことだった。私はまだ43歳で、今にして思えば、知力はすでに怪しくなり始めていたけれど、気力・体力はまだ大丈夫な水準にあった（と思いたい）。

それからの21年という、長いとも短いともいえそ

うな時間のあいだには、うれしいことや嬉しいこともたくさんあったし、そうではないことも少しはあった。

そんな21年のあいだに、退職する多くの先輩が「大過なく過ごせたことを感謝する」という意味の挨拶をされるのを聞いて、そういう挨拶も大人っぽくてよいけれど、自分のときは少しちがうことも言ってみたいものだとずっと思っていた。でも、けっきょく「小過や中過がたくさんあって申し訳なかった」と付け加えることしか思いつかない。

長いこと（やっぱり長かったんだ）お世話になりました。ありがとうございました。

長岡高専のますますの発展を祈っています。

振り返って

教育研究技術支援センター

伊佐 実



昭和54年より長岡高専に勤務して30余年、この度定年を迎えることとなりました。改めて年月の過ぎ去る速さを感じます。

在職中は色々な出来事がありました。勤め始めて間もなく学生達と一緒に受けた電気工事士実技試験ではプレッシャーを感じた事を今でも覚えています。学生と放課後遅くまで懸命に行った実験。滑ったことがない留学生達と行った

スキー研修等。高専で過ごした時間その一つ一つが大切な糧、財産と思っております。

また10年前の甚大な被害をもたらした中越地震に自然の力を見せつけられた気がしました。しかし、多くの方々の協力のもと学びの舎は復興し、学生達は当時一時的にも学びの中断を余儀なくされましたが、彼等はきっと何かを得たと思います。

そして東日本大震災！如何許りかと心が痛みます。人間の英知を信じ一刻も早い復興を願ってやみません。

私も再びスタートラインに立ち高専で得た知識、経験を生かし歩んで行きたいと思っております。皆様には大変お世話になり感謝しております。皆様のご健勝と長岡高専の益々のご発展を祈念致しております。

教員の異動 (平成24年3月～平成26年10月)

【退職】

(平成24年3月31日付け)
 岩瀬 誠一 一般教育科教授…………… 定年退職
 石田 博樹 電子制御工学科教授…………… 定年退職
 加藤 正直 物質工学科教授…………… 定年退職
 佐々木 徹 機械工学科准教授…………… 退職(長岡技術科学大学へ)
 柴田 勝 物質工学科准教授…………… 退職(山口大学へ)
 佐藤 和秀 環境都市工学科嘱託教授…………… 雇用期間満了退職

(平成25年3月31日付け)
 近藤 俊美 機械工学科教授…………… 定年退職
 丸山 一典 物質工学科教授…………… 定年退職
 今野 哲 一般教育科教授…………… 退職(日本体育大学へ)
 自見 壽史 一般教育科教授…………… 退職(聖徳大学へ)
 岩瀬 誠一 一般教育科特任教授…………… 雇用期間満了退職
 石田 博樹 電子制御工学科特任教授…………… 雇用期間満了退職

(平成25年4月1日付け)
 占部 昌蔵 一般教育科准教授
 ……………… 配置換(東京工業高等専門学校へ)

(平成25年6月30日付け)
 高橋 智恵 一般教育科講師…………… 任期満了退職

(平成25年9月30日付け)
 田中真由美 一般教育科准教授…………… 退職(信州大学へ)
 横山 剛士 一般教育科准教授…………… 退職(金沢大学へ)

(平成26年3月31日付け)
 山田 隆一 機械工学科教授…………… 定年退職
 粟野 一志 物質工学科教授…………… 定年退職
 塩野 計司 環境都市工学科教授…………… 定年退職
 太田 昌孝 一般教育科教授…………… 退職(名古屋短期大学へ)
 倉橋 貴彦 機械工学科准教授…………… 退職(長岡技術科学大学へ)
 岩瀬 誠一 一般教育科嘱託教授…………… 雇用期間満了退職
 近藤 俊美 物質工学科特任教授…………… 雇用期間満了退職
 丸山 一典 物質工学科特任教授…………… 雇用期間満了退職

(平成26年8月31日付け)
 高橋 剛 一般教育科准教授…………… 退職(新潟大学へ)
 木村 博子 一般教育科助教…………… 退職(日本医療科学大学へ)

【新任】

(平成24年4月1日付け)
 岩瀬 誠一 一般教育科特任教授…………… 再雇用
 石田 博樹 電子制御工学科特任教授…………… 再雇用
 倉橋 貴彦 機械工学科准教授…………… 採用
 奥村 寿子 物質工学科助教…………… 採用
 河本 絵美 物質工学科助教…………… 採用

(平成25年3月26日付け)
 高橋 智恵 一般教育科講師…………… 採用

(平成25年4月1日付け)
 太田 昌孝 一般教育科教授…………… 採用
 大森 理聡 一般教育科講師…………… 採用
 上村 健二 電子制御工学科助教…………… 採用
 岩瀬 誠一 一般教育科嘱託教授…………… 再雇用
 近藤 俊美 機械工学科特任教授…………… 再雇用
 丸山 一典 物質工学科特任教授…………… 再雇用

(平成26年4月1日付け)
 米崎 啓和 一般教育科教授…………… 採用
 桐生 拓 一般教育科助教…………… 採用
 金子 健正 機械工学科助教…………… 採用
 押木 守 環境都市工学科助教…………… 採用
 佐々木 徹 機械工学科准教授…………… 採用
 村上 能規 物質工学科教授
 ……………… 配置換(八戸工業高等専門学校から)
 占部 昌蔵 一般教育科准教授
 ……………… 配置換(東京工業高等専門学校から)

山田 隆一 機械工学科特任教授…………… 再雇用
 粟野 一志 物質工学科特任教授…………… 再雇用
 近藤 俊美 機械工学科嘱託教授…………… 再雇用
 丸山 一典 物質工学科嘱託教授…………… 再雇用
 塩野 計司 環境都市工学科嘱託教授…………… 再雇用

(平成26年9月1日付け)
 市村 勝己 一般教育科准教授…………… 採用

学科生及び専攻科生の進路状況

平成23年度 平成24年3月現在

■学 科

学科名	卒業者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
機 械 工 学 科	42	30	3	8	1
電気電子システム工学科	45	26	5	11	3
電子制御工学科	42	31	3	3	5
物 質 工 学 科	37	25	2	10	0
環 境 都 市 工 学 科	39	24	6	8	1
計	205	136	19	40	10

■専 攻 科

専攻名	修了者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
電子機械システム工学専攻	21	14	5	2	0
物 質 工 学 専 攻	7	2	2	3	0
環 境 都 市 工 学 専 攻	9	2	3	4	0
計	37	18	10	9	0

平成24年度 平成25年3月現在

■学 科

学科名	卒業生数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
機 械 工 学 科	40	20	8	10	2
電気電子システム工学科	39	25	8	6	0
電子制御工学科	38	31	2	3	2
物 質 工 学 科	47	42	0	5	0
環境都市工学科	39	28	5	6	0
計	203	146	23	30	4

■専 攻 科

専攻名	修了者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
電子機械システム工学専攻	14	6	4	4	0
物 質 工 学 専 攻	5	2	1	1	1
環境都市工学専攻	7	0	4	3	0
計	26	8	9	8	1

平成25年度 平成26年3月現在

■学 科

学科名	卒業生数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
機 械 工 学 科	42	23	5	11	4
電気電子システム工学科	35	20	5	10	0
電子制御工学科	41	38	1	2	0
物 質 工 学 科	44	36	1	6	1
環境都市工学科	38	26	3	8	1
計	200	143	15	37	6

■専 攻 科

専攻名	修了者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
電子機械システム工学専攻	15	5	6	4	0
物 質 工 学 専 攻	4	3	1	0	0
環境都市工学専攻	9	3	2	4	0
計	28	11	9	8	0

同窓会長賞受賞者紹介

■平成23年度 受賞者

	氏 名	学科	所属	理 由
1	安芸 恵太	機械工学科	陸上競技部	H20年 4×400mリレー 全国高専大会出場 H21年 4×400mリレー 全国高専大会4位メンバー
2	阿部 哲雄	環境都市工学科		H20年 4×400mリレー 全国高専大会出場 H21年 100m走り高跳び 4×100mリレー 関東信越高専大会優勝男子 H21年 4×100mリレー 全国高専大会4位メンバー H22年 100m走り高跳び 全国高専大会出場男子
3	梅澤 将充	電気電子システム工学科		H20～22年 円盤投げ 全国高専大会出場 H21年 円盤投げ 全国高専大会8位 H22年 円盤投げ 全国高専大会6位
4	安達 人志	電子制御工学科		H20年 4×400mリレー 全国高専大会出場 H21年 4×400mリレー 全国高専大会4位メンバー
5	多田 圭祐	電子制御工学科	ロボティクス部	H20年 「ROBO-EVOLUTION 生命大進化」出場登録 全国大会出場 第4位 H21年 「DANCIN' COUPLE ダンシングカップル」ピットクルー 全国大会出場 8位
6	古川原 峻	機械工学科		H20年 「ROBO-EVOLUTION 生命大進化」ピットクルー 全国大会出場 4位 H21年 「DANCIN' COUPLE ダンシングカップル」ピットクルー 全国大会出場 8位

■平成24年度 受賞者

	氏名	学科	所属	理由
1	須藤 大翔	機械工学科	陸上競技部	H22～24年 全国高専大会 男子110mH 3連覇 H22年 110mH 全国高校総体（インターハイ）出場 H24年 110mH 全日本学生対校陸上大会（インカレ）出場 H24年 北信越学生陸上競技選手権大会 110mH 優勝 全国高専記録樹立（110mH）
2	池田 真太郎	電気電子システム工学科		H22～23年 全国高専大会 400m出場（2年連続出場） H23年 全国高専大会 4×400mリレー7位 入賞メンバー（第1走者）
3	渡邊 裕太郎	機械工学科	柔道部	関東信越高専大会 団体戦 三回優勝、準優勝二回 個人戦 優勝一回、準優勝一回 全国高専大会 5年連続出場 H20年 関東信越大会 団体戦優勝 H20年 全国高専大会 団体戦出場 H21年 関東信越大会 団体戦準優勝 H21年 全国高専大会 団体戦出場 H22年 関東信越大会 団体戦優勝、個人戦準優勝 H22年 全国高専大会 団体戦出場、個人戦90kg級 出場 H23年 関東信越大会 団体戦準優勝、個人戦90kg級 第3位 H23年 全国高専大会 団体戦出場、個人戦90kg級 第5位 H24年 関東信越大会 団体戦優勝、個人戦90kg級 優勝 H24年 全国高専大会 団体戦出場、個人戦90kg級 第5位
4	芳賀 亮太	機械工学科		関東信越高専大会 団体戦 二回優勝 準優勝二回 全国高専大会 4年連続出場 H20年 関東信越大会 団体戦優勝 H20年 全国高専大会 団体戦出場 H21年 関東信越大会 団体戦準優勝 H21年 全国高専大会 団体戦出場 H22年 関東信越大会 団体戦優勝 H22年 全国高専大会 団体戦出場 H23年 関東信越大会 団体戦準優勝 H23年 全国高専大会 団体戦出場
5	加島 徳人	物質工学科	水泳部	H20年 関東信越地区高等専門学校体育大会 100m平泳ぎ3位 H20年 第14回全国高等専門学校水泳競技大会100m平泳ぎ出場、400フリーリレー9位（予選） H21年 関東信越地区高等専門学校体育大会 100m平泳ぎ2位 H21年 第15回全国高等専門学校水泳競技大会 10m平泳ぎ出場 H21年 新潟県高等学校総合体育大会水泳競技大会 100m平泳ぎ17位、200m平泳ぎ20位 H22年 関東信越地区高等専門学校体育大会 100m平泳ぎ3位 H22年 第16回全国高等専門学校水泳競技大会 100m平泳ぎ11位 H22年 新潟県高等学校総合体育大会水泳競技大会 100m平泳ぎ15位、200m平泳ぎ15位 H23年 「赤十字救助員認定証Ⅰ」の資格を取得
6	山崎 脩道	環境都市工学科		H19年 関東信越地区高等専門学校体育大会 100m背泳ぎ2位 H19年 第13回全国高等専門学校水泳競技大会 100m背泳ぎ8位 H20年 関東信越地区高等専門学校体育大会 100m背泳ぎ優勝、400mフリーリレー優勝 H20年 第14回全国高等専門学校水泳競技大会 100m背泳ぎ4位、400mフリーリレー9位（予選） H21年 関東信越地区高等専門学校体育大会 100m背泳ぎ優勝

				H21年 第15回全国高等専門学校水泳競技大会 100m背泳ぎ出場
				H21年 新潟県高等学校総合体育大会水泳競技大会 100m背泳ぎ7位、200m背泳ぎ7位
				H21年 北信越高等学校水泳競技大会 100m背泳ぎ14位、200m背泳ぎ13位
				H23年 関東信越地区高等専門学校体育大会 100m背泳ぎ優勝、特別表彰受賞〔通算3回優勝〕
				H23年 第17回全国高等専門学校水泳競技大会 100m背泳ぎ13位
				H23年 「赤十字救助員認定証Ⅰ」の資格を取得
				H23年 日本水泳連盟より「日本水泳連盟優秀賞」を受賞

■平成25年度 受賞者

	氏名	学科	所属	理由
1	清水 隆史	電気電子システム工学科	柔道部	H21～25年 全国高専体育大会 団体出場 H23年 全国高専体育大会 個人60kg級出場 H25年 全国高専体育大会 個人60kg級出場 H24年 全国高専体育大会 個人60kg級5位
2	金井 綾香	物質工学科	バドミントン部	H25年 全国高専体育大会 女子ダブルス3位 H24～25年 全国高専体育大会 女子団体出場
3	前田 一樹	機械工学科	陸上競技部	H23年 全国高専体育大会 陸上男子三段跳出場 H24年 全国高専体育大会 陸上男子三段跳2位 H25年 全国高専体育大会 陸上男子三段跳3位 H25年 北信越学生陸上選手権大会8位
4	高山 しおり	物質工学科		H22～25年 全国高専体育大会にマネージャーとして登録
5	南 裕也	電気電子システム工学科	水泳部	H21年 全国高専体育大会 男子800m自由形10位 H22年 全国高専体育大会 男子800m自由形7位 H23年 全国高専体育大会 男子400m自由形7位 H23年 全国高専体育大会 男子800m自由形5位 H23年 関東信越地区高専大会 男子800m自由形特別表彰〔通算3回優勝〕
6	川津 風花	物質工学科		H21年 全国高専体育大会 女子100m自由形出場 H21年 全国高専体育大会 女子50m背泳ぎ出場 H22年 全国高専体育大会 女子100m自由形出場 H25年 全国高専体育大会 女子フリーリレー3位
7	徳山 遥香	物質工学科		H22～25年 全国高専体育大会にマネージャーとして登録
8	出雲崎 文菜	物質工学科		H23～25年 全国高専体育大会にマネージャーとして登録 H25年 全国高専英語プレゼンテーションコンテストスピーチの部：日本国際連合協会会長賞
9	吉原 啓太	機械工学科		英語部
10	梶原 悟	機械工学科	バスケットボール部	H20～21年 全国高専体育大会 出場 H24年 全国高専体育大会 出場 H23年 高専体育大会地区大会 準優勝

平成23年度決算報告

収入の部

(単位：円)

摘要	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,491,151	1,491,151	
会費	3,000,000	3,210,000	15,000×214人
利息	-	654	
名簿代金	-	12,000	3,000×4冊
寄付金	-	2,000	
雑収入	-	-	
合計	4,491,151	4,715,805	

支出の部

摘要	予算	決算	備考
50周年事業寄付金	2,000,000	2,000,000	
会刊報費	1,000,000	956,280	7,550部作成 7,456部郵送
終身会費返還	-	260,000	10,000×26人
事務費	20,000	2,519	振込み手数料等
旅費・日当	200,000	101,200	理事総会、常任理事会、 連合同窓会
会議費	100,000	22,325	理事総会
卒業証書ファイル	180,000	145,845	(185+25)名分 同窓会名入り
通信費	30,000	16,490	名簿送料等
支部結成補助費	20,000	0	
支部補助費	100,000	217,500	悠久会(土木・環境都市 工学科同窓会)
人件費	200,000	90,000	平成24年2月～3月中に 手渡す
同窓会長賞	130,000	94,061	受賞者13名 (平成22年度)
予備費	400,000	85,000	香典、餞別、学校補助、 事務へのお礼等
合計	4,380,000	3,991,220	
次年度繰越金	111,151	724,585	
累計	4,491,151	4,715,805	

資産内訳 (H24.2.15)

	金融機関	支店	口座	残高
通常会計用	大光銀行	中沢	普通	611,583
	郵貯銀行	栖吉	普通	101,569
	現金			11,433
基金積立用	大光銀行	中沢	定額	10,000,000
	北越銀行	本店	定期	3,159,838
	郵貯銀行	栖吉	定期	8,131,146
	大光銀行	中沢	普通	1,862,544
合計				23,878,113

平成24年度決算報告

収入の部

(単位：円)

摘要	予算	決算	備考
前年度繰越金	724,585	724,585	
会費	3,000,000	3,165,000	15,000×211人
利息	-	400	
名簿代金	-	0	
寄付金	-	0	
雑収入	-	-	
合計	3,724,585	3,889,985	

支出の部

摘要	予算	決算	備考
総補助費	1,200,000	1,112,000	会場：長岡高専、 パストラル
終身会費返還	-	230,000	10,000×23人
事務費	20,000	2,519	振込み手数料等
旅費・日当	200,000	160,980	理事総会、常任理事会、 連合同窓会
会議費	100,000	7,000	理事総会
卒業証書ファイル	230,000	215,534	(200+33)名分 同窓会名入り
通信費	30,000	11,900	名簿送料等
支部結成補助費	20,000	0	
支部補助費	100,000	0	
人件費	200,000	90,000	平成25年2月～3月中に 手渡す
同窓会長賞	60,000	49,388	受賞者6名 (平成23年度)
予備費	400,000	344,550	香典、餞別、ロボコン はっぴ、学校補助、 事務へのお礼等
合計	2,560,000	2,224,071	
次年度繰越金	1,164,585	1,665,914	
累計	3,724,585	3,889,985	

資産内訳 (H25.2.18)

	金融機関	支店	口座	残高
通常会計用	大光銀行	中沢	普通	1,556,621
	郵貯銀行	栖吉	普通	101,595
	現金			7,698
基金積立用	大光銀行	中沢	定額	10,000,000
	北越銀行	本店	定期	3,160,473
	郵貯銀行	栖吉	定期	8,133,730
	大光銀行	中沢	普通	1,866,052
合計				24,826,169

■ ■ ■ 平成25年度決算報告 ■ ■ ■

収入の部

(単位：円)

摘要	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,665,914	1,665,914	
会費	3,000,000	3,180,000	15,000×212人分
利息	-	468	
名簿代金	-	6,000	3,000×2冊分
寄付金	-	10,000	長岡工業短大第3回卒業生から
雑収入	-	-	
合計	4,665,914	4,862,382	

支出の部

摘要	予算	決算	備考
会内員費	1,000,000	0	「同窓会からのお知らせ」等の発行、住所確認
終身会費返還費	-	180,000	10,000×18名
50周年記念誌増刷	600,000	600,000	増刷500部
事務費	20,000	2,204	振込み手数料等
旅費・日当	200,000	134,960	理事総会、常任理事会、全国高専同窓会
会議費	100,000	20,880	理事総会、常任理事会、全国高専同窓会
卒業証書ファイル	230,000	199,836	(214+30)名分(平成24年度)
通信費	30,000	9,300	会費返還送料等
支部結成補助費	20,000	0	
支部補助費	100,000	0	
人件費	200,000	90,000	平成26年3月3日に手渡す
同窓会長賞	60,000	43,520	受賞者6名(平成24年度)
学補助校費	400,000	519,719	ロボカップジュニア大会遠征費等(6/3補正予算)
予備費	400,000	70,000	香典、餞別、事務へのお礼等
合計	3,360,000	1,870,419	
次年度繰越金	1,305,914	2,991,963	
累計	4,665,914	4,862,382	

資産内訳 (H26.2.20)

	金融機関	支店	口座	残高
通常会計用	大光銀行	中沢	普通	2,889,613
	郵貯銀行	栖吉	普通	101,621
	現金			729
基金積立用	大光銀行	中沢	定額	10,000,000
	北越銀行	本店	定期	3,161,104
	郵貯銀行	栖吉	定期	8,136,320
	大光銀行	中沢	普通	1,868,744
合計				26,158,131

■ ■ ■ 平成26年度予算 ■ ■ ■

収入の部

(単位：円)

摘要	予算	備考
前年度繰越金	2,991,963	
会費	3,000,000	15,000×200人
合計	5,991,963	

支出の部

摘要	予算	備考
会報発行費	1,100,000	平成23年度は956,280円
会内員費	1,400,000	記念誌販売案内・お知らせの発行、住所確認
名簿メンテナンス	60,000	同窓会名簿メンテナンス年間契約料
事務費	20,000	
旅費・日当	200,000	
会議費	100,000	
卒業証書ファイル	230,000	
通信費	30,000	電話代金は後援会支払い(権利は同窓会)
支部結成補助費	20,000	
支部補助費	100,000	
人件費	200,000	役員手当、臨時アルバイト代(時給800円だと137.5時間分)
同窓会長賞	100,000	記念品10名分
学補助校費	400,000	
予備費	200,000	香典、餞別、事務へのお礼等
合計	4,160,000	
次年度繰越金	1,831,963	
累計	5,991,963	

-補足-
安定化基金申し合わせ(平成20年2月29日)

新常任理事あいさつ

(高専機械39回卒) 金子 健正



新潟市出身。平成17年に本校機械工学科を卒業、平成19年に本校専攻科を修了し、長岡技術科学大学修士課程、博士後期課程を経て、そのほか社会人、研究員など寄り道しながら機械工学科に着任しました。

懐かしさを感じながら授業や研究活動をスタートさせています。研究では卒業研究から現在に至るまで放電加工に携わっており、特

に絶縁性材料の放電加工について研究しています。現在は近年用途が拡大し、注目されている強化ガラスやCFRPの放電加工に挑戦しています。今後はこれらを軸にして新たな分野にも挑戦したいと考えています。

クラブ顧問はバスケットボール部を担当しています。まだまだ先生としてのオーラが身につけていないのが悩みです。精一杯がんばっていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

(高専制御8回卒) 上村 健二



平成25年度4月より、電子制御工学科助教として勤務しております上村健二と申します。私は平成14年3月に電子制御工学科を卒業し、大学へ編入学後博士を取得、医療機器関連企業にて製品開発に携わっておりました。本校に採用後は、主として情報処理やプログラム関連の科目を担当し、視覚や画像処理の研究を行っております。また、校務として総合情報処

理センターの副長も務めさせていただいております。学内理事として、今後とも同窓会の皆様への情報発信に努めたいと思いますので、同窓会の皆様におかれましては、今後とも本校へのご支援をよろしくお願い致します。

(高専環境3回卒) 押木 守



本年度より環境都市工学科の学内理事を務めさせていただきます押木守と申します。私は平成16年3月に環境都市工学専攻科を卒業したOBで、今年の4月から環境都市工学科へ助教として赴任させて頂いております。長岡高専ではこれまでに9,000名を上回る卒業生を輩出しており、今年度の卒業生が同窓会第48期生にあたります。こうした大きなコミュニティの理事を仰

せつかり大変恐縮ですが、長岡高専同窓会のさらなる発展のために精一杯努力させて頂く所存です。同窓会会員の皆様からは平素より力強いご支援を賜っておりますが、引き続き皆様からのご支援、温かいご指導ご鞭撻を頂ければ大変幸甚です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(高専電気34回卒) 神保 和夫



はじめまして、神保と申します。本年度は、同窓会の会計をさせて頂く事になりました。現在は、教育研究技術支援センターの第二技術グループで技術職員をしております。今年で4年目となりました。電気の学生実験やテクノセンターの業務を行っております。平成12年度に、本校の電気工学科を卒業しました。その後、専攻科第1期生として修了するまで

の間、先生方や職員の皆様、諸先輩方には大変お世話になりました。色々な事情から、気が付けば人生の半分である18年を、この母校で過ごす縁となっております。至らない所があるかと思いますが、これからもどうぞ宜しくお願い致します。

(高専環境8回卒) 込山 晃市



平成26年4月より、技術職員として勤務しております込山と申します。私は7年前に長岡高専環境都市工学科を卒業し、県内の民間企業にて建設業に携わっておりました。現在は環境都市工学科の実験・実習を担当し、学外向けのイベントや広報活動を行っております。前職が現場監督ですので、測量やCADなどの技術・作業系が得意分野ではありますが、専門知識を

蓄え様々な分野で教育支援をしていきたいと思っております。また、学内理事として何をするのか全く分かっておりませんが、これから長岡高専卒業生の皆様のお役にたてるよう精進してまいりますのでよろしくお願い致します。

事業年表 (平成23, 24, 25年)

<平成23年度事業報告>

- 6月1日 浅野副会長就任
- 7月8日 第1回常任理事会開催
会報発行準備
- 10月7日 中途退学者への終身会費返還(26名)
- 11月19日 全国高専同窓会連絡会出席
- 12月5日 会報発行
- 1月11日 同窓会長賞推薦依頼(学内教職員)
- 2月28日 第2回常任理事会
同窓会長賞推薦候補者の選考
- 3月6日 平成23年度理事総会

<平成24年度事業報告>

- 4月4日 振り込め詐欺への注意喚起
- 6月2日 創立50周年記念式典
- 9月27日 第1回常任理事会開催
高志会総会案内の準備
- 10月12日 中途退学者への終身会費返還
- 10月17日 第2回常任理事会開催
高志会総会準備
- 11月17日 同窓会高志会総会開催
- 11月24日 第4全国高専同窓会連絡会出席(事務局長)
- 12月1日 高松常任理事着任
- 12月14日 再度の振り込め詐欺への注意喚起
- 1月11日 同窓会長賞推薦依頼(学内教職員、2月4日締め切り)
- 2月13日 第3回常任理事会
同窓会長賞推薦立候補者の選考
- 3月5日 平成24年度理事総会

<平成25年度事業報告>

- 4月1日 上村健二理事、藤田信行氏を事務局に
- 5月8日 第1回常任理事会開催
50周年記念誌販売について
- 6月3日 第2回常任理事会開催
課外活動支援について
- 6月 ロボカップジュニア2013世界大会出場における
遠征費、女子バスケット部の支援
- 10月21日 工業短大3回生同窓会の高専見学
- 11月5日 中途退学者への終身会費返還
- 11月12日 古い名簿、物品等の廃棄
- 11月23日 第5回全国高専同窓会連絡会出席(副会長)
- 12月23日 長岡高専サイエンスフェスタの支援
- 1月15日 同窓会長賞推薦依頼(学内教職員、2月3日締め切り)
- 2月20日 第3回常任理事会
同窓会長賞推薦立候補者の選考
- 3月3日 平成25年度理事総会

高志会の活動紹介

高志会は、長岡高専同窓会の発展と会員相互の親睦のために活動しています。主な活動としては、(1)高志会総会の開催、(2)同窓会報の発行、(3)高志会会員名簿のメンテナンスの3つがあり、毎年1件ずつ、それぞれ3年毎に実施しています。紙媒体の名簿は平成22年度をもって発刊を終了致しましたが、会員情報は高志会の根幹ですので、引き続きメンテナンスは行なうこととしています。同級会の開催などのための会員名簿の提供については事務局までお問い合わせください。本年度は会員名簿のメンテナンス、50周年記念誌の増刷販売、会報の発行をさせていただきます。また会報は、学校や高志会の活動の様子をより良くお伝えできるよう、本号より全面カラー印刷といたしました。

これら主な3つの活動の他、毎年卒業式後に行なわれる学生表彰において、在校時の課外活動で優秀な成績を収めた卒業生に対して同窓会長が「同窓会長賞」を記念品と共に直接授与しています。さらに毎年、卒業生・専攻科修士生全員に、卒業・修了証書カバーの提供を行なっています。

これら高志会の活動や各種情報はホームページに掲載しております。こちらもぜひ御覧下さい(URL:<http://www.nagaoka-ct.ac.jp/dousoukai/>)。ご意見等ございましたら、事務局までお寄せください。

(事務局長 高専化学11回卒 坂井俊彦)

個人情報の取り扱いについて

同窓会高志会が収集した個人情報は、同窓会名簿の作成及び会報などをお送りするための宛名出力の付帯業務に使用することを目的としており、それ以外には利用いたしません。

収集した個人情報について、委託先も含め、機密保持には万全を尽くします。

自己情報を照会したい場合は、同窓会高志会までご連絡ください。本人であることが確認できた場合に限り、開示いたします。その結果、訂正または削除を希望される場合はそれに応じます。

● 振り込め詐欺にご注意ください ●

本校卒業生の家族宛てに、卒業生の名を騙り振り込め詐欺と思われる電話がかかってくるケースが多数報告されています。卒業生の方は、ご家族の方が振り込め詐欺の被害に遭わないように、連絡を取り合い、被害を防止するようお願いいたします。

同窓会では、平成22年度版を最後に名簿の発刊を中止しておりますが、同窓会名簿をお持ちの方は取り扱いに細心の注意をお願いいたします。

編 集 後 記

本年は同窓会報の発行に加え、1年遅れでの名簿メンテナンス実施、さらには50周年記念誌の販売と通常よりも多くのイベントを抱える年でした。そのような中で、年度途中での総務交代となり、すべてを完了できるか不安ではありましたが、なんとか無事に会報を発行することができました。現在、同窓会では理系学生確保のため、サイエンスフェスタなどの学外での広報活動にもさまざまな補助を行っております。学外イベントで高専を見かけられた際は是非ご参加いただき、科学技術の、そして高専への理解を深められるようご協力ください。

本年度は卒業生からのご要望にお応えして、校内見学会を開催いたしました。高専の長い歴史の中で変わったもの、変わらないものさまざま楽しんでいただけたようです。校舎見学だけでなく、同窓会に要望などありましたら同窓会事務局までご連絡ください。

学生の活躍のために、学校から同窓会への要望は増加してきております。皆様のご支援を今後ともよろしくお願い致します。

(総務 高専制御8回卒 上村 健二)

書籍紹介

「目指せ!プロフェッショナルエンジニア われら高専パワー全開」
(独)国立高等専門学校機構 産学連携・地域連携委員会

「社会で活躍する高専卒業生たち」編集委員会編(日刊工業新聞社)
定価 1,600円(税抜)

・昭和37年に創設された高専は、これまで約35万人の卒業生を世に送り出し、社会で卓越した活躍をし、多くの足跡を残してきました。この本では、そんな卒業生の活躍を広く知ってもらおうという企画のもと、幅広い分野の高専卒業生を取り上げたものです。

長岡工業高等専門学校同窓会高志会

〒940-8532 長岡市西片貝町888

長岡工業高等専門学校内

電話：0258(34)9442

電子メール：kosikai@nagaoka-ct.ac.jp

ホームページ：

URL:<http://www.nagaoka-ct.ac.jp/dousoukai/>